

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「子どもの視点から捉える」

○中学1年 Mさん

①帰宅したら、ドアに鍵がかかっていて家の中に入れなくて困った

②その結果、イライラして自分のメガネを壊した

帰宅したお母さんは、「大切なメガネを壊すと、見えなくなって困るでしょう」と、Mさんに伝えた。

①家に入れない



②メガネを壊した



お母さんにとっては、②への対応（メガネを壊したこと）が問題となった。しかし、Mさんにとっては、①への対応（家の中に入れなかったこと）が問題となる。

このケースは、イライラしてメガネを壊す前に、鍵がかかって家に入れないときに適切に対応できるスキル（合鍵を持ち歩くようにする、困ったときに親に電話をするなど）を身に付けることが重要である。

メガネを壊す行動をやめさせる（親にとっての問題）という視点から、鍵がかかっていたらどのように対応したらよいか（子どもにとっての問題）に切り替えることで、支援内容が違ってくる。子どもの視点から問題行動を捉えることで、問題行動を止める支援から、問題行動が起きない支援が可能になる。

授業中に離席する子ども、気持ちを抑えられなくて思わず手が出てしまう子ども等、どんな行動にも必ず理由や意味があります。問題行動はコミュニケーション手段であり、困っているSOSのサインです。一番なんとかしたいと思っているのは子ども自身であり、成長するための必要行動と捉えましょう。子どもの気持ちに目を向け、その理由を探ると、きっと答えが見つかるはずです。

**とれたて直送便****「どのように答えますか？」**

「子どもについて教えてください」と問いを投げ掛けられたときの回答に、子どもをどんな存在だと捉えているのか、子どものどんな様子に目を向けているのかという特徴が反映される。子どもの身体的特徴や外見（背が高い、髪が長い）、行動の描写（落ち着きがない）よりも、性格や心理的特徴（緊張しやすい、優しい性格）を答えてほしい。子どものことをたくさん説明できる、早く答えられるか否かではない。子どものどのような側面に着目しているかという、子どもに対する見方、視点の特徴が、安定した愛着形成と関連している。